

瀟湘八景

梳

4362
~1



門へI
4362
元

4362

出
リ

詩歌鈔

瀟湘八景

鰲頭圖



442

故
瀟湘
元
一
月

瀟湘八景抄序

柱頭たてがしら危傳あやうし乃癖くせ有り。和嶠わがうの錢ぜにの癖くせあり。楊
氏やうしの愛あい士しの癖くせあり。劉氏りうしの三さん乃癖くせ有り。ま
王家わがの癖くせあり。いふもあ。次つぎのうら
待まち成なり好このと冷ひやよぬ。癖くせあり。このころ倉くら越この
乃のよら。うら。病いひまを。此こゝの癖くせあり。か
癖くせら。せや。いして。玉たま洞どうの癖くせあり。乃の癖くせあり。八景
と愛あいし。みら。う。抄せうし。忍しのは。う。益えきの。こ。て。一
乃の事こと物ものあり。こ。此こゝの癖くせあり。心こゝろの。こ。て。一

人のすゝまけがらむまよひの紫城さうと
 小出くまへていさう小窓乃眠とゆまさん
 さるの奇厥乃ぬき尋さうらけき物とん
 ろひすす梨棗よ乃ほさん事浅杯之里
 滅ふやばれれうと人もまらからめとありを
 ちこりこくて先浅小字にうく小見の情と
 止むと黄とめ秋葉よか魚けらめあうり

貞享三曆探梅天

一翠書



瀟湘八景詩歌作者目錄

雪樵 南禅寺 瑞溪 相国寺 月舟 建仁寺 月翁 相国寺
 天隱 建仁寺 祇蔭 建仁寺 雪嶺 建仁寺 桂悟 東福寺
 周麟 相国寺 村庵 南禅寺 雪村 建仁寺 東沼 同上
 竺雲 天龍寺 東岳 同上 雲章 東福寺 東旭

唐人

王礪 南唐 許道寧 宋 董源 宋人 李唐 宋人
 開同 范寬 宋 惠崇 宋

洪滄浪 朝鮮人 天和壬戌年來于日本

歌人

為相 冷泉中納言 為兼 三条大納言 明魏 天納言長雅法名 頌阿

景目錄



古渡 砂平漲 水痕一

後小松院

人皇百二代諱幹仁 永德明德應永永享

為尹

權大納言 正二位

雅世

權中納言

榮雅

權大納言 雅親卿

宋世

飛鳥井 雅康法名

逍遙院

西三条内大臣 法名亮空

桂祐

權少將源国永 法名也

詩歌作者

三十五人

詩負

九十九首

歌教

八十八首

瀟湘八景目錄終

瀟湘八景詩歌

瀟湘夜雨

玉碕

古渡砂平漲水痕

一蓬寒雨滴黃昏

蘭枯蕙死無尋處

短些難招楚客魂

今雪樵

浦雲作雨度江城

添得洞庭歸客情

瀟湘八景詩歌鈔

瀟湘八楚國中ニアルニ水ノ名ナリ。瀟

水ハ道列ノ九疑山ノ中ヨリナカレ

テ。湘水ハ桂林海陽山中ヨリナカレ

出テ。靈渠ヲヘテ零陵ニイタリテニ

水ヒハツニナカレ。ア。フ。是ヲ瀟湘トハ

云也。コレ永列ナリ。永ハニ水ノ心ナ

ルヘシ。此浦絶景ニテ天下ノ大觀ナ

ル故ニ詩人多ク心ヲヨセタリ。此處

ニ九疑山ト云山アリ。峯々九ツミ

ハ

蓬底今宵可無憂

窓前疲馬噓其聲

全 瑞溪 譚周鳳号 後主御門時人有集 名卧雲堂相國寺

湘江夜雨不勝情

孤客舟中憂易驚

誰把二妃千斛淚

逢底滴作斷腸聲

全 月舟

湘南何地最多愁

班竹蕭邊風雨秋

テイツレモヨク似テ疑キユヘニ九疑

ト名ツクル也傍ニハ蒼梧野ト云野ア

リ古虞舜ノ二妃娥皇女英舜ノ別

ヲ悲ニ給ヒ此浦ニ身ヲ放キ玉ヒレ

ナリ其廟所モ今ニアリト云ヘリ大舜

ハ賤キ田夫ノ子ナリ楚國ノ傍ニ瞽

叟ト云者ノ子ニテ重華ト云レ人ナ

リ孝行深甚ニ昔モ今モ並ナキ聖

人ナリ賢母ニハナレテ繼母ニツカハ玉ヘ

リ繼母重華ヲ惡ミ實子ノ象ト云

今夜二妃難入夢

蕭々喚起辟陽侯

全

清泛三湘夜中艫

聽雨眠楚天聞過

鴈北客未歸船濁

酒飲無筭青燈冷

不煙對床工覓句

達且足新鮮

全

昏昏風浪裏瑟瑟

ル子トトモニ鼓舞豊ニサヘヲナレニノ重

華ヲ害セシヲハカル或ハヤ子ヲフカ

セテ其屋ニ火ヲツケ焼コロサントレア

ルトキハ井ヲホラセテ埋ニコロサント

スレ厄重華ツイニノカレエテイヨク

孝悌ヲツクセリ堯王ソノ孝心ヲキ

コレメレ御女ノ娥皇女英ノ二女ヲメ

アハセツイニ天下ヲ譲リ玉ヘリ其後

舜三苗ヲ征ソ路ニテ崩レ玉ヘリ二女

コカレ慕テ紅淚ヲナカレ其カタハラ

八景詩

打逢聲騷客千年

恨靈妃萬古情

為兼二条大納言
玉葉集撰

おのゝゑにうゑはれは

ほろろうくらり

明魏大納言長
雅之法名也

花山院左大臣實
雅公子

吳竹を深一洞や

あまのこゝろのうゑ

あまのこゝろ

ノ竹ニソ、イテ竹ミナ紋ヲナス是ヲ

湘浦ノ班竹ハニキク紫竹ムラサキトハ云ナリ。竹班

湘浦雲凝鼓瑟蹤ト云ヘルモ是ナリ。

古歌ニモ紅ノコソメノ小袖ウヘニキン

戀ノ涙ノ色カハルヤト、忍戀ノ心ヲ

ヨメリ。血ノ涙ノコトナリ。此事ヲ奥ノ詩

ニモ作レリ。サテ八景トハ八陰ノ極數

ナリ。地ハ陰ナリ故ニ八景トスルナルヘシ

六景十景十二景ナト皆陰數ナリ。此詩ノ作者古鈔ニ白居易ガ詩トセリ

傾阿小野宮大納言
言能實マハ
代孫俗名泰

船ともし入はれは乃

何れもも店好う糸

あはらうら

後小松院

水上れあるはる

重かきて雨をば

よれの浦風

為尹冷泉大納言
中乃為郡子

をりよぬれ水舟の

或説ニ東坡ガ詩ナリト云リ。皆アヤ

一リナリ。此詩ハ玉碯ノ作也。瑩玉碯

ハ南宋ノ代ノ詩人ナリ。善山水ヲ登

カケリ。惠崇ヲ師トシテナラヘリ。西

湖ノ淨慈寺ノ僧ナリ。圖繪寶鑑ニモ

其傳アリ。日本ノ登ヲ學フ者玉碯ヤ

ウト云ハ此人ノ事ナリ。又別ニ孟玉碯

ト云アリ。是人モ詩畫ヲ工ミニセリ。其

外董源范寛許道寧李唐等詩

八景詩

吹乃りも横海に
ヨコカイ

今やまねん

雅世 二サヨ 飛鳥井中納言
言法名祐雅

古今撰者大納言
雅縁郷子也

神ぬらひの常も

わかれはよき浪

よ歌乃むる海

栄雅 エイガ 飛鳥井中納言
雅親

法名文明
五年出家

らみ枕かしく神

波越くよこもるぬ

瀟湘夜雨 シウシヤウ

先自空の易勢免 セン

凍雲指雨濕黄昏 トウウン

孤燈窓裏駐蕭瑟 コトウ

祇向竹枝添海痕 キウ

女子よす浪よるを記 コノメ

歌乃木也城と海をわらふ ウタ

常々我ら トコト

和まれむる海

逍遙院 セウヤウイン 西三条内大臣

實隆法名亮空
又号駐雪

竹乃葉の色深し

同よも承ふらるる

海をたそへ

沙弥桂祐 シヤミケイユウ 權少将源

國永之法名也三
光院点并興書

東城ふらるる海乃

言ふけはは絲元の

枕り抱く



八景詩

四

和乃多也字海子ん
管ぬららぬと浪の
よりの志とよ

洞庭秋月

王 珣

四面平湖月滿山
了螺髻鏡中看
岳陽樓上聽長笛
訖盡崎嶇行路難

全 月翁 譚周鏡
又号交芦相国寺僧也

瀟湘夜雨

先自空江易断魂
昏孤燈蓬裏聽
淚痕。此詩ハコノ浦ニ娥皇女英ノ
廟アルユヘニ二妃ノ事ヲ思出テ全篇
ニノヘタリ第一ノ句ハ二妃ノ事ヲ思フニ
ナニトナク物カナレキ故ニイ一タ雨ノ
フラスサキヨリ魂ヲタチヤスレト
ナリ心ノイタレキヲ云ナリ一説ニ
昔ノ舜ノ二妃ノヲ思フニ其江ノ景

暮雪晴嵐眼底塵

瀟湘何景最驚人

洞庭七十朶巍峭

上有頰雲月半輪

全 瑞溪

夕照統殘淡似煙

何人緩步出村前

洞庭湖上月應好

欲倩漁郎棹夜船

全 月舟 譚壽桂号

一華建仁寺僧編
續錦綉段博識僧

ハ昔ニカハラ子氏人ハ過去テ空キ

江ナレハ二女ノ舜ヲ慕テ悲ミ玉ヒレ

事ナトヲ思出テ魂モキユル詩モノア

ハレナルトナリ我心ニ哀ヲ催スユヘニ

ト雨モ物サヒレク思ハル也故ニ雨

フラスサキヨリハヤ此浦ニイツレハモ

ノカナレキ也夕サレハ野ニモ山ニモ

煙タツ思ヒヨリコソモヘソムルナレハ

歌ニ比ノ此句ノ心明カニナルヘシ○第

二ノ句凍雲トハコレル雲ナリ粘雨ト

一華建仁寺僧編
續錦綉段博識僧

氷輪ヒツリン逐ヒツ歎ツ洞庭波テイテイハ
 今夜騷人詩興多コノヨノサウジンシキウタ
 八百里秋天在水ハチヤクマイルキウテンノミヅニ
 姪娥却是作湘娥シメガハカクシテシヨウガ
 全 許道寧キョウダウネイ 學李太白ガクシタハク
 白水連天遠吳松シロミヅツラネンテンエンゴソウ
 一頃秋橋列水魄イツケンキウキョウリツスイハク
 滿竹閣桂華留鳥マンチツカクケイカワルイ
 鴈不飲啄魚龍與ガンフクシツクイサヲリウリウ
 拍浮雷虹寓今夕ハクフレイウカウイマコノヨ
 清勝度公樓セイショウタク

公雲ハアメニツキ雨ハ雲ニツクモノナル
 ヌニ云ナリ。黄昏ハ暮方ヲ云濕トハ
 雨ノフル体ナリ。三四ノ句モ二妃ノ事ヲ
 思出テ作レリ。孤燈蓬裏ハヒトツノ
 燈ヲトメノウチニトモレテサヒレキト
 也。聽蕭瑟ト西方ノ遊船ニ蕭笛ヲ
 フキ瑟琴ヲヒク。其音皆フキノワガ
 船ノ中ヘキユル也。コレニヨツテ湘妃
 ノ琴ヲナト弾レテ思出テ感涙ヲ催
 ストナリ。一説ニ夜ノ雨ナレハ蓬ヨリツタ

全
 万頃玻璃上輝々マンケンハクリウジョウキウキウ
 玉一環望中青似タマイツクワンボウシヤウシ
 粟薄暮是君山ムシホハクモシキョウサン
 為兼
 波乃止千里の糸跡ハナノトシ千里ノイトアト
 疑す丸て月よのまぬウタガハシメテツキノマヌ
 何方けうらみコノトコロケウラミ
 明魏
 沈のほろ心いかにぬシンのほろこころいかにぬ
 えてくちの口よりエテクチノクチヨリ

ヒトククト落ル声ヲキクニ琴ノ音ノ
 ヤウニキユルナリ。迴檐點滴如琴筑
 ノ意ナリ。サルニヨリ二妃ノ琴ヲ調玉ヒ
 レテラアルクト。今キクヤウニ思出スト
 ナリ。コノユヘニ紫竹班竹ノ枝ニムカツテ
 昔ノ哀ヲ思ヒ涙ヲソヘナカスナリ。涙
 痕ハナミタノアト也。二女ノ涙ノアトニ
 今モマタ涙ヲソヘルトナリ。殊勝ノ作ナ
 リ。ツラク吟レ味ヒテミルヘシ。
 船ヲナレハ又ナリ。乃雨

八景李

波乃止此月

秋何

すし唐の庭も尾止
海へぬ月をいづぬ
秋乃山陰

後小松院

み清くおぼえおぼえ
阿ふううにみうてはる

月の氣を

為尹

秋風も城を代松母

と梅よりくおぼえのくおぼえ

け八景乃あは冷泉中洲云為相の

作なり。為相の定家郷の孫あり

大判言為家乃子ありなり

子題をぬゆへもろくこれ詩よか

まろび日午も右人の詩あおぼく

足くしり。為兼明魏頓阿後小松

院為尹雅世榮雅逍遙院桂社あ

あはれ題まろくあおぼえおぼえ

乃心にあえらに松とよす後

吹抜ひく月より今

すきしり此節

ソラセ
宋世 從二位灌中納言二樂軒

限をれ遠山のりや

足くしりく波は子星

月うさわけ

榮雅

此月も氷浅く浦

向より舟もをれ

秋風も波

逍遙院

乃喜たつくもおぼえのくおぼえ

雨の物もあいまふれてこころぬ

ふしかり。あはまらりおぼえ

れ志づくにるぬ乃あをば志き

あとあり。あはにぬぬなれくおぼえ

あはれ。このあは小侍もも風草

といはくまらり。あはあはあは

の院も大雨もあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあは

景本

七

月影北家の河波
影にて二河の味里
秋風うそ

桂祐

秋文てすのたさく
心すすをこれえん
月波見れも

秋風月北家の
すいあをささく
あひのたさく

遠寺晚鐘

玉碕

鐘送斜陽出暮山
遙知煙寺隔前湾

山翁莫怪归来晚

欲待峯頭月上還

全 天隱 諱龍澤号
黙雲建仁

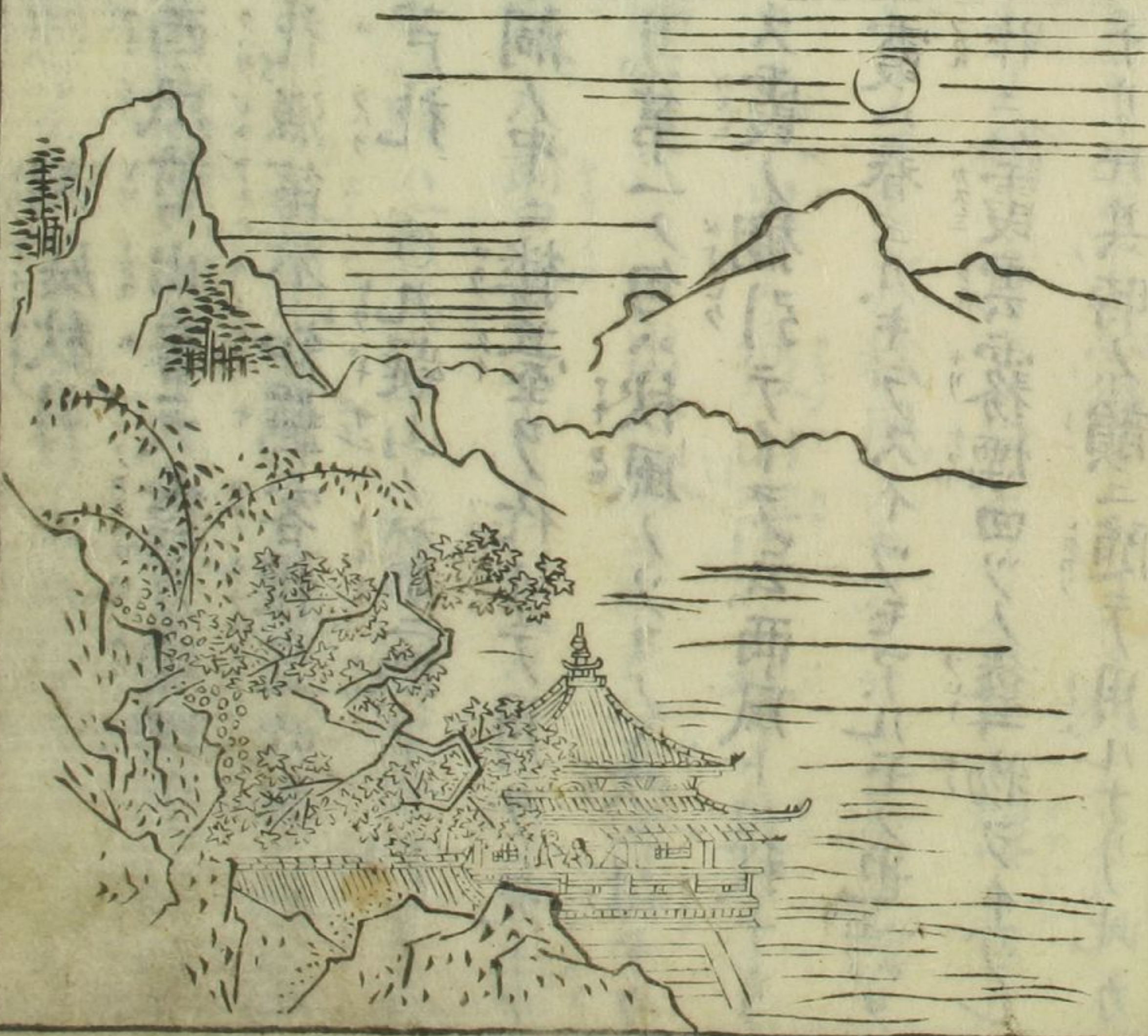
寺大昌院住僧也撰
錦綉殿有黙雲集

山童背笠伴僧行

偶訪村家喜快情

空翠湿衣飯猪衣

片雲碧谷暮鐘声



洞庭秋月

西風剪出蒼天處

万頃蟾波浴桂心

漁笛不知霧客恨

木吹寒影過蒼松

秋小坐心水吟

易けて月波をみれば

松より志す波

同 瑞溪

紫翠陰々擁上方
疎鐘幾杵向黃昏
殘聲風外度湘水
隔岸行人歸路忙

同 月舟

風送疎鐘度翠微
山行路險奈斜暉
寒鴉飛盡杵聲急
百尺長橋人獨歸
同 董源 夫人事南唐
工畫山水

洞庭秋月

西風剪剪出暮天
霞萬頃煙波浴桂
花漁笛不知羈客恨
直吹寒影過
芦花 ○九疑山ノ麓ニ興アル洞アリ
洞中ニ樓臺ヲ作りテ月ヲ見トナ
リ。第一ノ句ハ秋風ノソヨク吹ニ付テウ
ス霞ノ棚引テイヲ云。西風トハ秋ナリ
霞ハ春ニカキラスイツモアルモノ也。詩ヲ
作ニハ霞雲霧煙四ツノ聳物ヲイツレ
ナリ凡其時ノ韻ニ随テ用ルナリ。此カ

金碧招提古高峯

最上層喧風僧入
梵宿霧佛前燈輝
觀延空寂蒲牢急
震凌黃昏山踏險
窘步一枝藤

同

僧定鐘聲緩依倚
聽不真渡頭風正
急喚醒未歸人
同 為魚

スミハ雲ト意得テモヨシ。秋ノクレッツ方

山ノ端ノ月モハヤホノメカント櫻上ニノ

ホリテミレハ。秋風ノモノスサニシクアラ、

カニ吹出テ。彼山陰コノ林ノ奥ヨリ

雲ヲハユヒ出ス躰ヲミレハ。天津空ヘ

風カ前方出スヤウニミユルトナリ。万頃

トハ頃ハ百歩ナリ。一万頃ハ三千里ホ

トナリ。水面ノ廣ヲ云。煙波トハ波ノタ

ツガ烟ノ如クミユル体ナリ。波間ニ月

影ノミヘツカクレツスルハユアミスルヤ

世よゆれ人街海
ゆく也幸山さ此
本くこれ乃後

明親

今そつれおれ八重山
わ終すて今さあ
入ねのか

秋阿

岸うつじそのらな
寺思よて磯山あさ
後乃まか

後小松院

尻よとまおはらり
そゆれゆら此の
入ね乃後

為尹

入ね乃後おぼる
おくれて存考をひ
秋たか立

宋世

そふれ山くらむ
すゆあほ世れか

ウナルヲ浴スト云ナリ。桂花八月ヲ云
水月ノ体ヲアリクト云出セリ。漁笛
ハ漁人ノフク笛ナリ。漢ノ丘仲ト云モ
カレカト云魚ノ鳴ヲキテ初テ笛ヲ
作レリ。丘仲吹之魚汀ニ集ルトナリ。
彼カレカハコロクト鳴ナリ。或哥ニコロ
ト小石ナカル。山川ニ夜ハ明ケリ
シカナクナリ。ト云。西風キリイ
タス如クナレ。白浪ヒルカヘリテ波ノ
枕モサタニラス古郷ヲ戀ルノ心ニテ

アハレヲ催スルヲリフシ。漁人カ笛打
フキテ月ニ釣ヲタレテ何心モナラ
花浅水ノ邊ヲ打道ルナリ。羈客ハ
旅行ノ客ヲ云。此詩人ミツカラ我ヲ
云ナルヘシ。漁人ハ羈客ノ心ニウレヒア
ルモシラス。釣ノイトナミニ心ヲイル也。
寒影ハ月ノサヘタル影ナリ。又イワク
羈ハトラキ旅ヲ云。ハルカニ故郷ヲヘタ
テタル客ナトハ月ニハコトニフルサトヲ
思ヤリテ物カナシキニ。笛ノ音ノア

八景詩

へま乃子

采雅

ほ乃乃れ入の後の
ゆき水橋の山乃
園乃古寺

道達院

な乃の俺奴尾上の後
出煙を水にまかせ
後も乃りしと

極祐

のまふ風やつれ

ハレナルヲ聞テ夕ヘヤラヌ体ナリ

秋よまじ水冷しくさよ燭けて

月城ひしせれおふの志ら波

おいおのろりなり秋はあもす

さ海しきみのるりいんやあく

月のろのろく水天一色なり浪

乃之城さよふけかこいよあう先や

さよきていさよれおよさ味ぬ

洞庭湖のていをありくと

う先なり

ゆきん志つたゆじ

入ね乃かぬ

ほ乃志乃めひくろく

入おの種より乃志

あまにゆとりて

遠浦帰帆

玉碇

無邊刹境入毫端

帆落秋江隱暮嵐

残照未収漁火動

老翁閑自説江南

遠寺曉鐘

雲庵不見梵王宮

寂と鐘を祈曉風

は去よ乃の寺を

存言只在此山中

常のれ乃旁もあつるふ

かの子書よ遠方へ

みらいもくあわ

全 正宗 譚龍統号
群王峯建仁寺靈
泉院僧瑞巖弟子

一舸洞庭波上秋
天書落手北歸不

柳帆風順挑千里
不送誰門捨棹留

全 瑞溪
片帆飛去碧天涯

為報清風著意吹
落自湘江前跡遠

南遊孤客北歸時

全 月舟

鵬雪已消春水多

飯帆萬里逐風過

請看一幅弓彎影

天未黃昏月落波

李唐 宇備古善
山水宋人

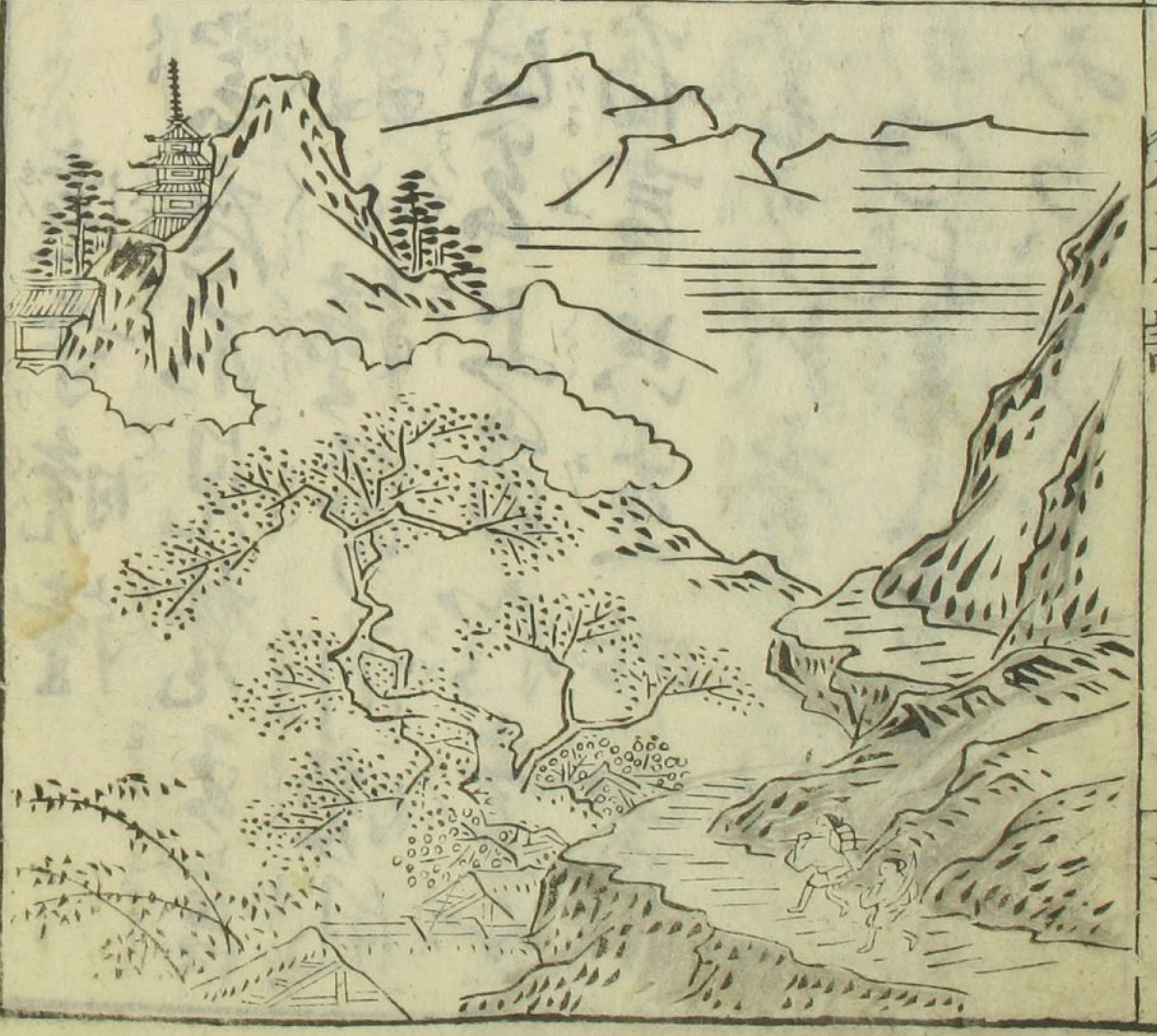
劈箭風帆下春江

不盡流客來登快

閣天際識飯舟裂

眦明千里觀身等

一漚斜陽疏木外



遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮。殷々鐘聲訪晚

風。此去上方猶遠近。為言只在此

山中。全篇遠寺ノ晚鐘ノ体ヲアリ

くと作レリ。第一句ハ梵王宮トハ寺ノ異名ナ

リ。雲遮ハ遠キ山寺ナレハ雲ヲハタテ、

見ヘヌソ。殷々鐘ノ響音ク也。訪ハ此鐘

声人ニ向テ訪訟ヲ云ヤウナルト也。何ト

訪ルソトイハ今此鐘ノキユル寺ハ餘

ニ程遠クハアラス。雲ケヘキツテ見ヘ子氏

五雨不遲留チリウチラ

全

八景瀟湘妙歸舟ハシキキレ。コシク。フスラヌ

更色絲根サシキネ煩ワザラヌ小

住我賦式微詩ウバハス。ラビ。フ

為兼

渾身チリフキあはれはよし

みづね風よさむひ

三花ミハナふりり

明魏

秋風アキカゼはたは海はあけて

頓トクテ此山中コノサンチウニアルゾトウツク訥ニツル也ニヒカハク上方ト云

モ寺ノ名也モテアリ湖南コシノニ有アリ之杜庵レトアンノ義銘キコ初ハジメ

位鹿死クシ後住ノチ上方也ウヘノ長列ナガレツ有アリ鹿死寺カシノ見ミ

江湖集註コウコ第三句サダシ作者ノ意コノニ思シラフ

寺ハ何方トモイツカタミヘス遠ト思トウキハ又鐘ノ声ハ

アリト此寺ハヤカテコノ此山中ニ有ト告渡

ルヤウナルゾト也チノコノ近比チビ面白キノヒシロ作意也サクイ

一説ニ猶遠近ト云ハナラフ晚風ノキゲレク吹ナ

ハ鐘ノ音風ニ随テシタカツ近クモ聞ヘ又遠ク

モ聞ヘテ寺ノ遠近モチレカタク也キ古抄

海士人アノヒト乃宿ノトそこにも

松阿

かんじよまゝかほ

さけりてし

後小松院

一葉ヒトとほひも

浦ウラ風カゼはそひてゆ

沖ツキの釣ツリ舟フネ

為尹

ニ梵王宮トハフン須弥山ノ頂ニ梵王天ノイ

マ所ヲ云也コノ句ノ意ハ瀟湘ノ浦ナ

レハ九疑山ノイタクキニ古寺ノ跡アリ

テ朦朧タル雲霧ノ内ヨリヲホロク

ト入相ノ鐘ノ咽ウヒクルヲ聞ニ彼山キワ

メテ高ク聳テ寺ハ見エス雲中ヨリ

鐘ノミ響音ケリヒキ扱ハ此入相ハ下界ニア

ラス上界ノ梵王宮ノ鐘カト疑ウタガヒタル

体ナリト云リ異説ナリ

善チうチくチカチよチわチつチ小経コキョウ此コノ善チに

八景詩

十三

おるはよはるおはる

海もんたはたかほの

海もんたはたかほの

宋世

波海とく思ふ

加ふ舟人

栄雅

言ぬらふ志帆

舟舟人

とらかへもみらいきくおわ

心の空うらきまびらきく言かふ

時分入れば待てたれれどらこ

ちにいさふとこら乃旅人うらむ

ろほく河成をめゆくよりし

き方人のき記さびゆく人なり

とらこら人とかたか本ゆわこの

と記のきをとと休勢物経のあ

信濃なれあさ梅れをにらる煙

と地あら人乃見やいとく快ぬ

逍遥院

るれうに漕舟

舟舟人

思ふ

桂祐

白雲にけけはの

立口、れ今久り

舟舟人

立ゆり昔此紫

舟舟人

き浦帰帆

鷺粵青山一棟秋

湖平浪接天流

歸櫓入道花去

家在夕陽江上頭

か魂かむふ云おうと浪

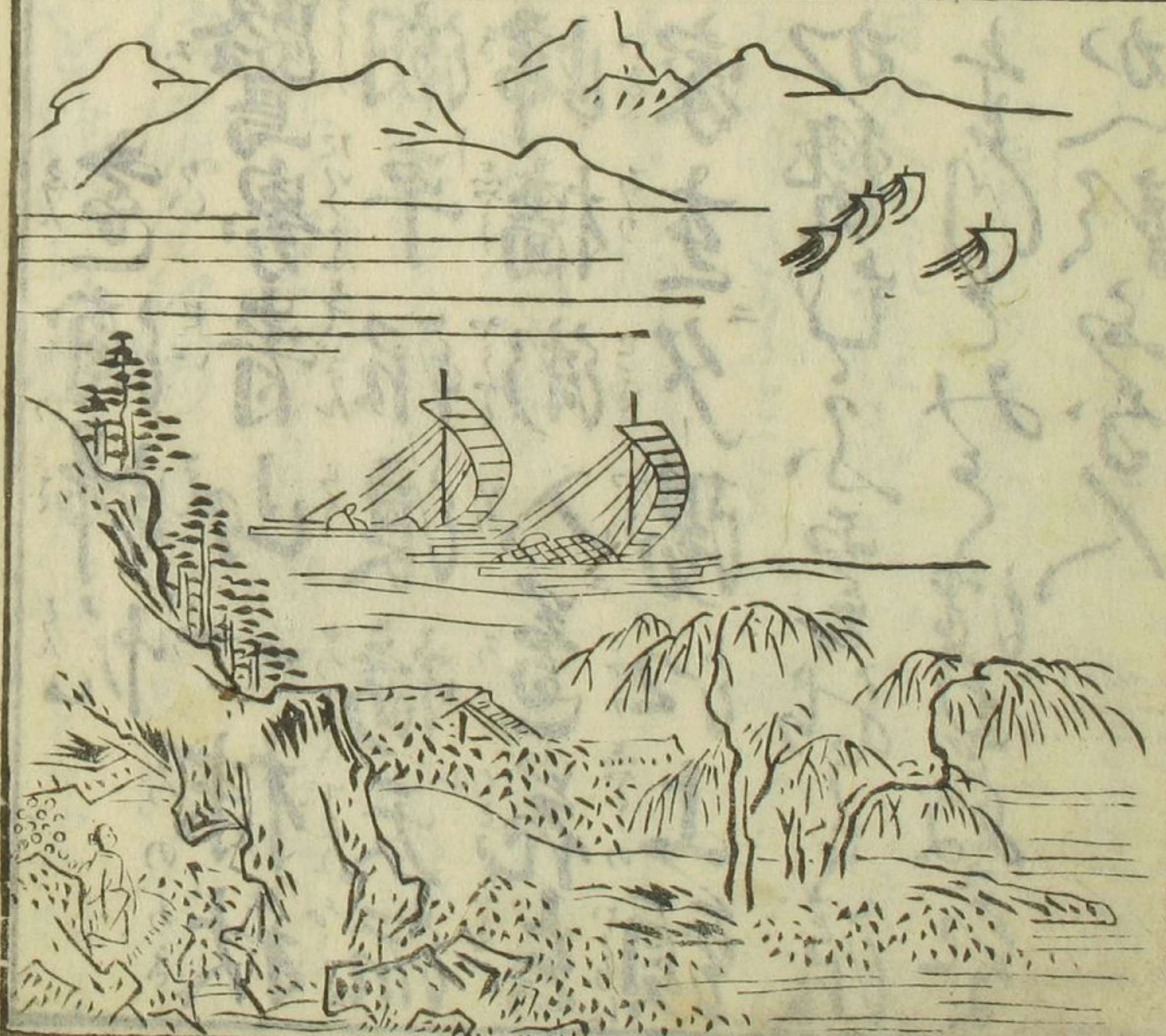
き月のとみきけわぬな

かへ航あな人

山市暗嵐

玉碓

雨^{アメ}挹^ヒ雲^{クモ}脚^{タラシ}欽^シ長^{ナガ}沙^サ
隱^{カクレ}残^{ノコ}虹^{ニジ}帶^{オビ}晚^{ヨル}霞^{カスミ}
尤^{モトモ}好^{コト}市^チ橋^{ハシ}官^{ツカサ}柳^{ヤナギ}外^{ソト}
酒^{サケ}旗^{ハタ}搖^{ユラ}曳^{ヒキ}客^{キヤク}忠^{チウ}家^カ
全^{ツギ} 祇^キ蔭^{イナ}道^{ミチ}号^{ナヅケ}繼^{ツグ}章^{シヤウ}
嵐^{ラン}靄^{アイ}藏^{サウ}春^{ハル}屋^ヤ數^{スウ}椽^{セン}
過^{スベテ}橋^{ハシ}材^{サイ}叟^{ソウ}去^{イキ}忙^{マシ}然^{ゼン}
市^チ門^{カド}爭^{マシ}利^リ錐^{ヱビ}力^{チカラ}未^{マダ}
水^{ミヅ}色^{イロ}山^{ヤマ}光^{ヒカリ}不^{マダ}真^{マコト}綿^{ワタ}



全 瑞溪

嵩^{カウ}隈^ケ茅^{カウ}店^{テン}似^ニ鷄^{ケイ}栖^シ
竹^{チク}樹^{ジュ}荒^{アラ}涼^{リョウ}踏^{フミ}欲^{ホシ}迷^{マシ}
無^{ナシ}價^カ青^{アヲ}山^{ヤマ}人^{ヒト}不^{マダ}買^{カハ}
夕^{ツキ}嵐^{ラン}留^{トモ}在^{アリ}市^チ橋^{ハシ}西^ニ
全^{ツギ} 壽^ス桂^{ケイ}
花^{ハナ}時^{トキ}山^{ヤマ}郭^{カク}不^{マダ}全^{ツギ}負^{ツク}
白^{ハク}髮^ヘ其^ノ為^ニ堯^{ヤウ}舜^{シユン}民^{ミン}
風^{フウ}動^{ユル}青^{アヲ}帘^{レン}市^チ色^{イロ}散^{サン}
太^{タイ}平^{ヘイ}象^{ゾウ}在^{アリ}一^{ヒト}盃^{ハシ}春^{ハル}
全^{ツギ} 開^{ヒラ}同^{ドウ}

遠浦帰帆

鷺^ロ界^{カイ}青^{セイ}山^{サン}一^{ヒト}株^{クサ}秋^{アキ}潮^{ウシ}平^{ヘイ}銀^{ギン}浪^{ナミ}接^{ツグ}天^{テン}
流^{ナガ}帰^キ檣^{カウ}漸^{シヅカ}入^{イル}蘆^{アシ}花^{ハナ}去^{イキ}家^カ在^{アリ}夕^{ツキ}陽^{ヨウ}江^{カハ}
上^{ウヘ}頭^{カビ}○一^{ヒト}二^ニノ句^{クマ}ハ水^{ミヅ}上^{ウヘ}江^{カハ}山^{ヤマ}ノ体^{タマシ}ヲ云^{イハ}ナリ。
鷺^ロ鳥^{カウ}界^{カイ}下^{シタ}ハ鷺^ロ鳥^{カウ}鷺^ロ鳥^{カウ}ノ集^{アツ}リ居^イル取^{トル}ヲ云^{イハ}一^{ヒト}株^{クサ}
ハ株^{クサ}ハユスエトヨメリ。株^{クサ}ニ作^{ツク}ルハ誤^{アヤ}リ也異^イ木^キ
ヲ一^{ヒト}レエス青^{アヲ}葉^ハハカリ一^{ヒト}様^{サマ}ニミユルユヘ一^{ヒト}株^{クサ}ノ
秋^{アキ}ト云^{イハ}ナリ。意^{ココロ}ハ青^{アヲ}山^{ヤマ}ノ緑^{キナオ}ノ中^{ナカ}ニ白^{シロ}鷺^{カウ}鳥^{カウ}ノ一^{ヒト}
スキニミユル体^{タマシ}ナリ。或^{アル}歌^{ウタ}ニ松^{マツ}原^{ハラ}ノミドリノコ
ナタ飛^{トビ}サギノ真^マ砂^{サコ}ニ落^{オチ}テキユルカケカナ。

八景詩

十五

藪澤赴唐久崇朝
宿雨晴蒼崖林影
動老木日華明野
店炊煙濕溪橋流
水聲青帘何處是
彷彿聽鷄鳴

旅亭新酒熟下馬
試從容頗勝老岳
對夕陽三兩峰
全 雪嶺

如見院僧有集名
梅溪集後相原時
市倚山隈深處開
過橋來者只求財
朝山暮水不貪空
日夕幾入空手回
全 明魏

トヨナリ。言コロハ白鷺ノ松ノ緑ニウツラ
フキハ見ユレ真砂ニツリテハトモニツ
ノ色白キ故ニ鷺ヲ見失フト也。此詩ニ
カナヘリ。第二ノ句銀浪ハ浪ノ白キヲ云。
潮ノヒヤウクト廣ヲ見レハ天ニツキテ
流ルヤウナリ。第三ノ句題ノ意ヲツ
ノ、吟シ出セリ。檣ハホバシラトヨム
漸ハセンクニト云心ナリ。帰帆ナレハコナ
タノ汀ノ芦原ノホトリヘ入サルトナリ。
芦花トハアシノホヲ云ナリ。此体ヲ

ミレハ漁人ノ家ハ定テ夕日ノサレウツ
ル入江ノホトリニアラントナリ。一説ニ鷺
界青山トハ界ハ鷺ノ多クムラガリ遊
フトコロヲ云。コレハ真ノ鷺ニハアラズ帆
ノ多クツラナリカヘルヲサキノヤウニミ
タルナリ。青山ハコトノ山ニアラス潮ノ
天ニ接メ流ルヲ一様ノ緑ノ山ニミタル
也。青山ノウヘニ白鷺ノ多クムレイル
ヤウニ思ヒタレハ夕暮ニカヘル帆トモノ
多クツラナルニテアリレヨシナリ。界ハ

八景詩

十六

すりてぬぬ嵐よ
ゆらく市人

後小松院

何の尾の止れ松
やう清く林森よきき
さやれ市人

為尹

市をふきにはも
立になり市場北よの
山をみゆく

宋世

サカフトモヨムナリ。青山ノ中ニ白ク水キハ
ヲタテ、ハツキト見ユル体ナリ。

嵐もふきゆき浪のみみく
はりをぬきはかへふ人
○前の心をあらわしめる海の波をみるの
を成ふし海上とかんまはは風吹あ
れとあまあらわしめるを浪の立もも
いいかけをぬきる。とれと約すら
人もはりをや失くゆかうを
とあり

嵐をくちれこもも
立まれ山陰くれと
かの市人

栄雅

みの乃雲拂ふ嵐ハ
あらわし市人

逍遥院

山風のたらし海をて
若秋の綿ハあひひ
市人もあり

山市晴嵐

一竿浅碇斜陽裏

為族人家烟濤中

山路僻眠蹄去免

太平無目ふ春風

松きりくさ里よあう人老

みひとく積る嵐よ志つむ

やまのりとのあ

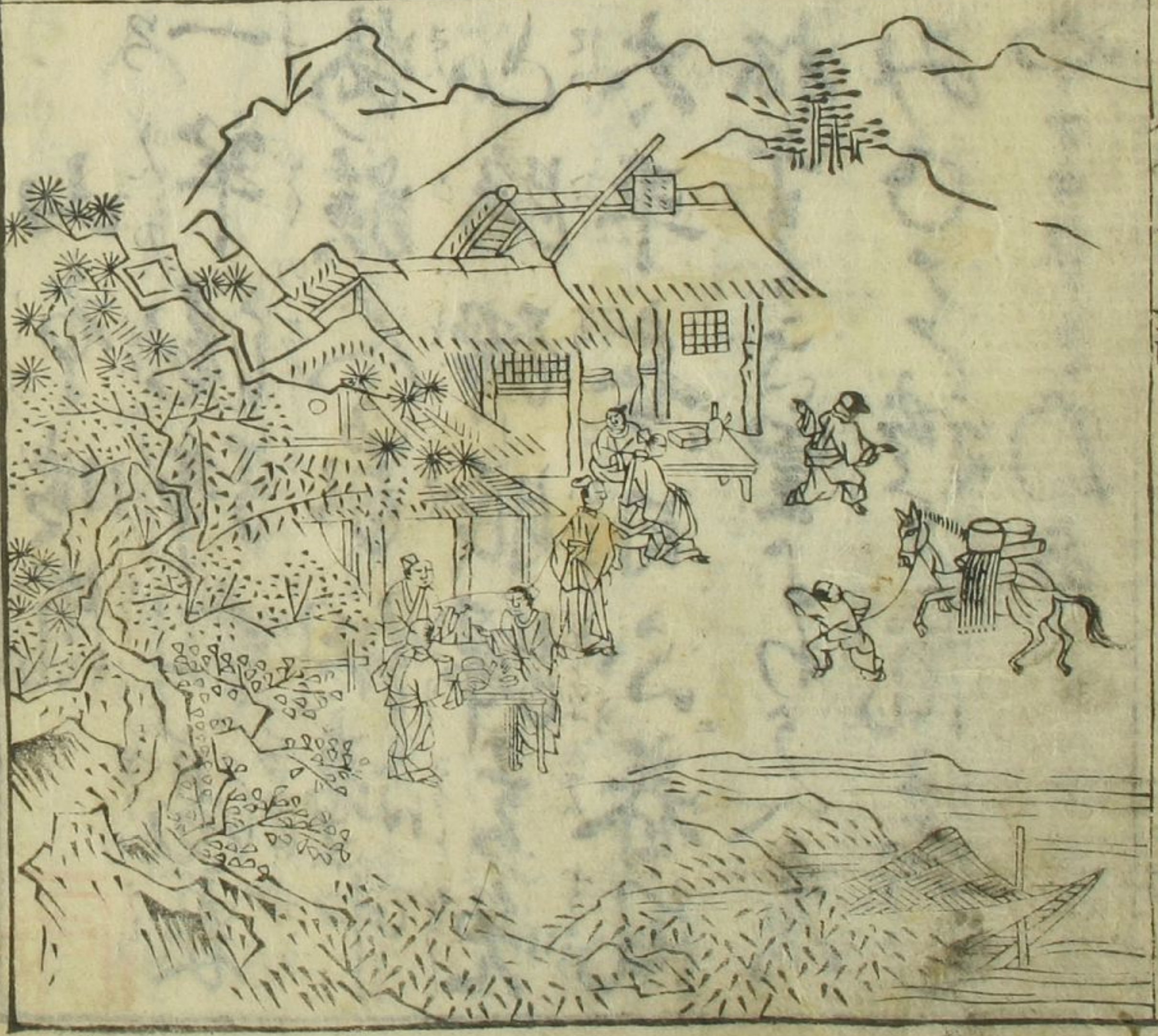
桂祐

盆乃のくねふもこれ
市人のあひやはふ
みねはつらも
あつはつとあつのさ
あつはつとあつのさ
あつはつとあつ

漁村夕照

玉碯

一江晴日滿砂汀
賣與魚來酒半醒



兼笠未乾柳板靜

一聲漁笛數峯青

今周麟景除寺宣竹相國寺

晚浦罷漁無一翁

村々曬網鎖腥風

江天亦入摸稜手

兩景半藏殘照中

今瑞溪

一抔江村夕日晴

風光縱好有誰爭

漁翁收網已歸去

山市晴嵐

一竿酒旆斜陽裏數簇人家煙嶂

中山路醉眠歸去晚太平無日不

春風○晴嵐トハ嵐ハ山氣ナリ靄ナトノ

類ナリレカレバ天氣ウラカニヒヨリノ

ヨキヲ晴嵐トハ云也一二ノ句山市ノ人

家ノ体ヲ云一竿ノ酒旆トハ酒屋ニ出シテ

ク所ノハタサホヲ云酒ハヤシノヲナリ唐

酒屋ニハ旆ヲ色ニソメ詩トトヲ深入

テ門ニタテヲク也コレヲ酒旆トモ酒旗

八景詩

湘竹西邊殘影明

全 月舟

江雨連霄沙岸崩

得時儘欲曝漁罾

斜陽易落危峰影

又待明朝紅日昇

同

林表墮金鴉孤村

三兩家晴光明浦

渌紅影帶薰葭傍

舍收漁網隔溪橫

凡云也晴天ナルホトニ悉ク市人ノ家々

ニテモ見ユルナリ。煙嶂ハ煙ハケムリ嶂ハ

ヤ一也。遠キ山陰ニアル人家ニテ見ヘワタ

ル体ナリ。数簇ハ多クムラカリテアル家

凡ク云山中ノ居知ナルホトニシホロニテ煙

ヤ霧ニ交テアル取ニテ晴渡テ見ユル

由ヲツクレリ。三四ノ句ハ太平ノ時節ナ

ルホトニ諸国ヨリ市ニ立者凡酒ニ酔タ

ノレミテカヘルサノ遅キ体ヲ云。無司不

春風トハ世上ノオタヤカニユタカナル由

釣車吹煙未篝火

新月一釣斜

全

落日寒潭靜西風

黃葉鳴鱸魚新出

網分我一杯羨

為兼

秋意のひまは

海を風が吹き

とらけり

明魏

ヲ云ル也。春風ハ万物ヲ生育スル温風

ナレハ諸民ノユタカニカレケサル處ナリ。誠

ニ太平ノ時節ナレハ秋風ノハケレキ時分

ニモ春風ノウラ、カナル思ヲナレテ樂ムヨ

レナリ。君カ世ハ遠ノ竹屋ニ豊カニテカ

ラ又早田ノ稲葉ソヨメク。トヨメル歌モコ

ノ詩ノ心ニ通スヘシ。タカキヤニ登リテ見レ

ハ煙タツ民ノカトハ賑ヒニケリ。ノ御製毛

此詩ノ一二ニ應スヘキナリ

松ノ下ニ坐りて

乃安んず

岸の危き海は浪も
経き入るるをけ
あふれと繩

傾阿

長閑なる夕日此波
あふせて雲とすふ
なればあふ人

後小雲院

夕はく日ゆつる様
の浪おこるれば海
のふらりゆ

何ぞ小志のいじらむものぞ
○あつらひ峯に木たつき松とありとれ
やたたきつらりく山のあつらひ
嵐は吹るるくくくくくくくく
先の雲おとみくくくくくくくく
うらにありの峯よりたれをいふよし
をよめおなり晴嵐の野の天氣乃
とれらるるく風もぬぬのくくく
作と化きりされとあふの嵐のそよ
くと吹るるくくくくくくくく

為尹

浪あはれ烟をゆて
みてる夕日と向ふ
里は市村

宋世

是れ夕日と向ふ
とらこら乃海をゆて
あつらひなれん

栄雅

波とや海はあつらひ
御舟とやあつらひ

漁村夕照

為尊 沙汀 惑乱 鶉
江 南 江 小 市 魚 燈
呼 壺 買 酒 大 象 醉
斜 看 西 風 舞 荻 花
浪 乃 色 入 日 の 影
な 浅 み 々 々 磯 寺 くら 花
木 かく 隠 れ 也 と

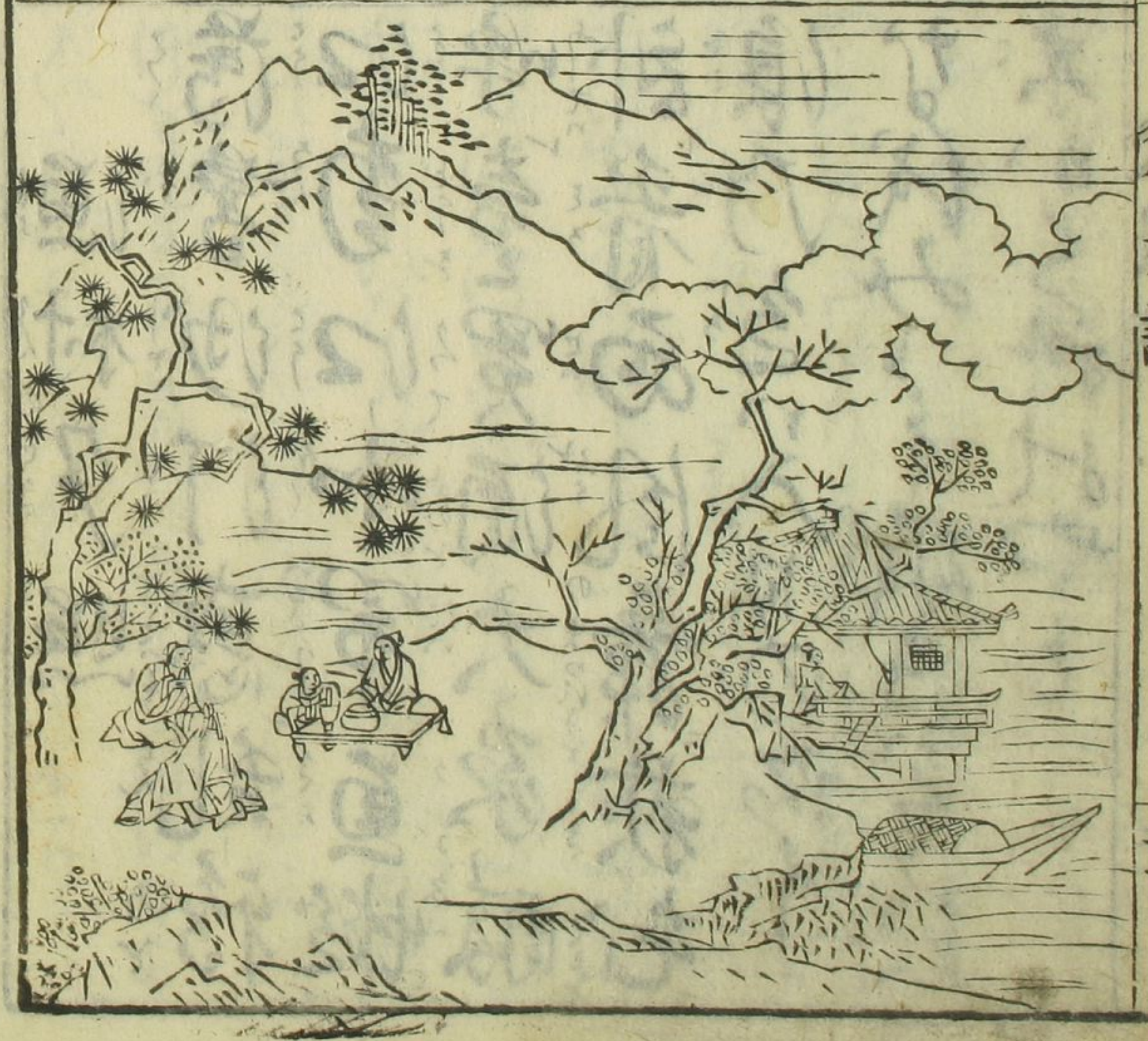
後乃山

道遙院

何れ此夜しるがて
其れをい入する
夕暮れ

桂祐

いり志て後乃山
夕日影とて
何れ也



うらけり

江天暮雪

玉碯

万里江夫万里心
飄々花繁麗平林
橋横踏断馬蹄滑
更説藍關博不禁

今 雪嶺

朔風吹雪暗江干
薄暮行人來往難
贏得孤村三四屋

漁村夕照

薄暮沙汀惑亂鴉
江南江北開魚

蝦呼童買酒大家醉
卧看西風舞

荻花 漁村ハ漁人トモノイル村ヲ云ナ

リニテ句暮方ニハ江ノ邊ノ水ノ辺キト

コノ林ナトニ鴉ハカナラスヤトルモノ也群

鴉トモガイツカタニヤトラフスト以テ那

邊ミタレ飛体ヲ乱鴉ヲ惑ストハ云ナリ

江南江北開魚蝦トハ是漁人凡ガカハリ

シアトニ魚蝦トモガアチラコチラトシテ

生柴煖酒不_レ寒

又

万頃玻璃一葉舟

長天雪暗夕陽收

寒愁豈_レ當_レ孤篷客

山亦白頭波白頭

今 瑞溪

漫天風雪暮江濱

飛鳥行人無_レ往還

山共湘娥愁底事

無端白盡翠螺鬟

水宿スル体ヲ云。又ハ漁人氏ノアチコチ

ニ多キヲモ云也。三四ノ句ハ漁人トモガ釣

ヲヤメ歸リ來テ稚子トモヲヨビ酒ヲカ

イ求テ飲醉テ西風ノ荻花ヲ吹ヒルカ

ヘスヲ卧ナカラ。打ナカメテ日ヲクラス

ナリ。日クレノ体夕日ノカヤク磯タニ

漁人ノ居体自ニミルヤウニヨク云カナ

ヘタル詩ナリ。大家トハ富貴ノ人ノ家ヲ

云。又ハ酒旗ヲタテタル酒屋ハ棟カトカ

高クテ漁翁氏ノ住宅ヨリハ大キニ家

今 月舟

湖南冬暖似春然

怪底山々暮雪連

應_レ是_レ湘君新白髮

波心影落鏡中天

今 范寬

朝吹掃_レ氛埃同雲

暝不_レ開_レ千山飛鳥

盡_レ一水滄舟回波

面方_レ鎔_レ采林梢已

凋_レ瑰懷_レ人留_レ剡棹

作リスルニヨリ酒屋ヲモ云也。又ハ漁人

トモノ何ノ思モナク我分際相應ニ樂

テ。醉卧タル知ノ身ユタカニ躰ユルヤカ

ナルヲ指テ大家ニ酔ト云ナルヘシ。又ハ

此作者大家ニ酒ヲ求テ酔タノレシニテ

卧ナカラ乱鴉魚蝦ノ汀ニ集ル体漁

人ノ歸ルアリサ。江ノ邊ノ芦花ナトノ

白妙ナルヲ。秋ノ夕風ノ吹ミタレケルヲ

ナカメヤリテ感ゼイル体ナリ。カヤウ

ノ景象ヲ賦セル詩ハ其作者ニナ

八景詩

九

野店且新醅

全

六月三山底城中

似甌中客来開短

軸乱雪舞江風

同 為兼

雪うらみ入の波を

きりりいけはむ

雪よかりりく

明魏

雪かぬ入に乃ゆい

八景詠

リカハリテ其景氣ヲウツシカヘテ其

作意ヲアチワフヘシ心イシ景氣ヲ

大ヤウニ見過テハ詮ナキ事ナリ

浪乃多は入の波よれみえく

磯三ふくくは木うく枝の荷

の波より海上波はくくせば日乃雪

かいゆもあはれはのえよ日影のいし

う川をくあはれはくくはくくはく

うくくくくくくくくくくくく

うくくくくくくくくくくくく

うくくくくくくくくくくくく

尺の口くく波よれ

頓阿

磯山乃こすえハ雪の

志のまりて夕は波よ

跡く雪うけ

後小松院

雪はれりりり

雪はれりりり

雪はれりりり

為尹

江天暮雪

雲淡々 任 膝 玉 茗

舟 舟 一 葉 寄 吐 力

前 湾 作 乱 敷 拜 樽

疑 是 山 陰 系 興 人

雪 乃 紫 乃 紫 乃 紫 乃 紫

雪 乃 紫 乃 紫 乃 紫 乃 紫

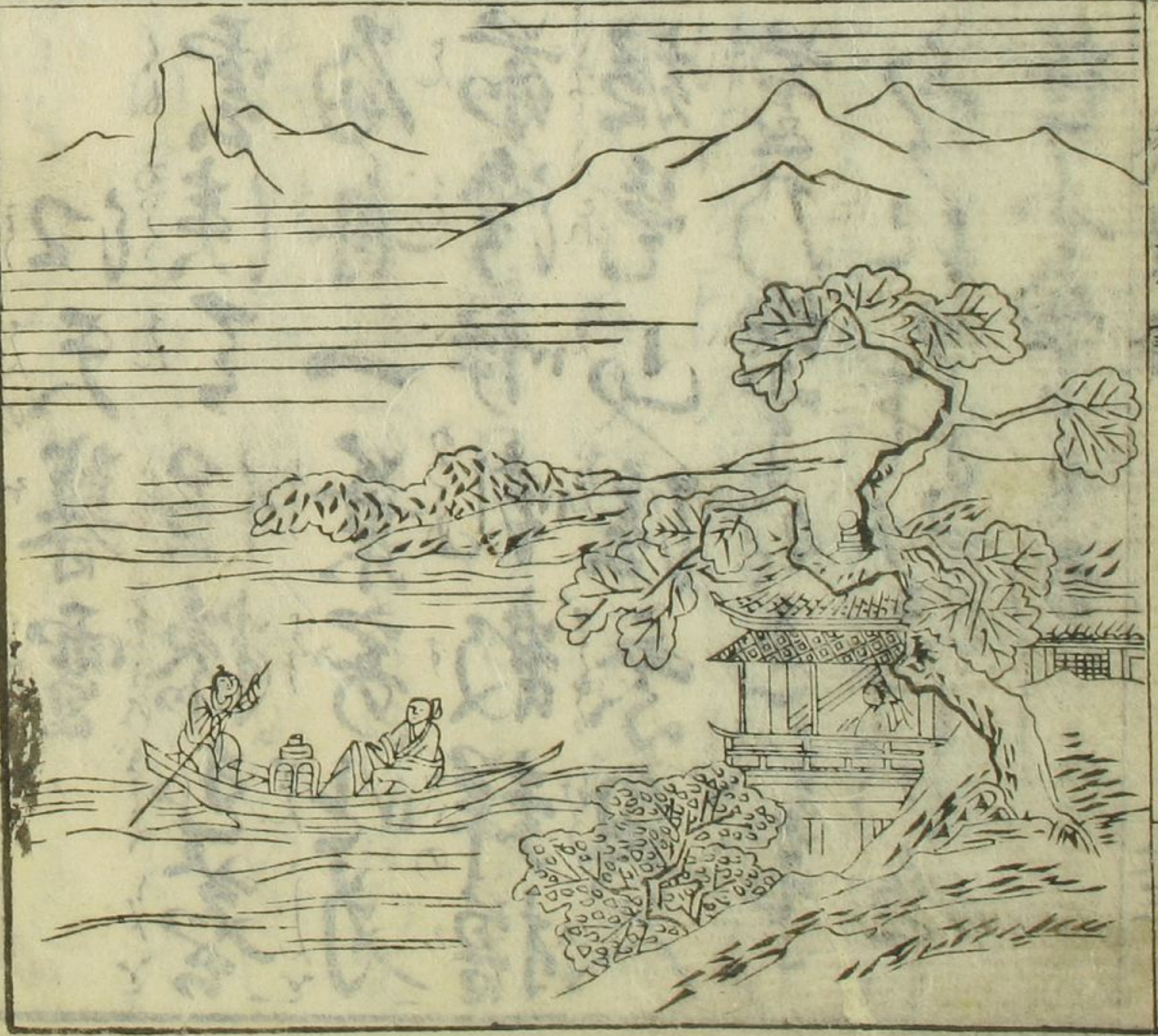
雪 乃 紫 乃 紫 乃 紫 乃 紫

雪 乃 紫 乃 紫 乃 紫 乃 紫

八景詠

廿三

小波乃入はるる
 うねもいねはたきさじ
 みねの白雲
 宋世
 風そよびつらねきと
 志波の入はるる
 河のひらき
 榮雅
 けいふく入はるる乃
 際もあつ風はたきさじ
 雲はさき波



道遙院
 いにしよあ入はるる
 ひらききき夕浪
 雲はさき波
 桂林
 雲がけあはるる
 けいふく入はるる乃
 一葉舟人
 ねねねねねねね
 ねねねねねねね
 雲はさき波

江天暮雪
 雲淡天低糝玉塵扁舟一葉寄吟
 身前湾岬軋數聲槽疑是山陰乘
 興人。心ハ雪ノフル時ハ雲ガマヒサカツ
 テ。天モヒキヤウニミユルヲ雲アハク天
 低ト云ヘリ。玉塵ハ雪ノ異名ナリ。糝
 ストハ万樹ノ枝々ニ米ノ粉ヲフルヒカケ
 タル如クニウス雪ノフリタルヲ云。第二句
 扁舟ハ小舟ナリ。一葉トハ貨狄カ古事
 ヨリ出タリ。吟身ハサマヨウ身トヨム。

八景詩
 七四

平沙落鴈

玉碣

點々隨群舊處栖
蒹花芦葉暗長堤
天寒水冷難成宿
猶自依依怨別離
全 桂悟道号了庵 東福寺
飛鳴何處晚相呼
影落平砂迷有無
舍鳥隨陽青老矣
失群栖泊一江湖

流浪ノ此身ト云心也。又詩ヲ吟スル身
ト云心モアルヘシ。三四ノ句ハ雪中ノ故事
ヲ取合テ云。前湾トハマヘノ入江ヲ云。啾
啾トハ曲ノ異名ナリ。文選ハ鴻雁ノ鳴
声ト注セリ。又槽ヲラス音雁ノ声ニ似
タルモノ也。コハ槽ノ声ヲ云ナリ。我ノミ
ナラス。此風景ヲ詠ル人舟ニ乗ヲ通
ルヲミレハ。ウタガフラクハ此山陰乗興
人カト覺ユルト也。コレハ晋ノ王子猷ト云
風流ノ人。雪ノ夜ニ我友ノ戴安道ヲ

全 瑞溪

冥飛無意問飯程
湘水南邊下晚晴
聖主上林猶射獵
青雲不似白砂平
全 月舟
平砂渺々雪初晞
何事先花催北歸
定識春深行不得
湘江有此鷓鴣飛
全 惠崇

トブラヒテ小舩ニ乗テ行ヲホトナク夜モ
アケレシ。夜中ノ雪ノ風景アサニナルホ
トニ乗興而來興盡テ歸ルト云ニ。剡溪
行タレモ安道ニ不逢シテカヘルソ。今其
古事ヲ用ルナリ。事文類聚ナトニアリ。
晋書列傳五十二傳アリ王徽子アサナ
ハ子猷王右軍義之カ子ナリ。ツ子ニ竹
ヲ愛ノイワク何可一月無此君邪
山陰ハ代ノ王氏ノ人ノ居處ナリ。後
京極攝政ノ哥ニ山陰ヤ友ヲ尋シ

八景奇

七五

漂泊楚天長トモシ同群トモ
 兄弟行朔風離塞トモトモ
 漠落日下瀟湘古ハクノク
 磧多葭茨平田足サキクサ
 稻梁飛鳴渺空際タカシ
 布武作文章フブ
 全ヘ
 翻ヒラ數行下灘磧ヒラキ
 俯蒼波此處稻梁スミ
 好人間贈繳多ヨシ
 同 為兼

跡アトフリテ只ただイニシへノ雪ノ夜ノ月
 前マヘ乃紫乃よかまま雪ゆきももゆゆもも
 みみささららみみ多たいいゆゆふふへへととりり
 〇〇意いははたたたたりりかかるる雪ゆき乃のああららじじにに
 いいひひけけくくははりりのの形かたちををささららりり
 かかゑゑ言ことははゆゆりりははりりききるる時ときはは汀てい
 色いろははいいれれれれももももれれととくくくく
 いい川がわもももも何なにももももたたららみみくく
 眺なが望ぼうももももららたたてていいここ感かん情せいああららじじ
 ろろぬぬららううここななりり

おおくくよよききんん此こゝのの
 ななららむむににああららむむ越こええかか
 友ともとともももも
 明魏メイ
 おおととししははかかくく風かぜやや
 何なにののううららにに又また立たちちゆゆりり
 おおつつかかりりもも
 好阿コウア
 好こ事ことももむむふふ波なみ海うみやや
 意いかかんん例れい倚よみみ休やすむむ
 からからら此こゝををととつつ

平沙落雁ヘイサラクエン
 古字書コジショ宛宛漢墨カンボク横横
 紫ムラサキのの秋アキ扇アヒ下ゲ幸コト汀テイ
 萱ヒメオドリ花ハナ借か化け衝つ海うみ雪ゆき
 候コト向むか斜しや湯ゆ刷か凍こ翎りゆう
 中ナカののああららじじ紫むらさへへ乃の友ともよよ
 ここぞぞいいれれくく定さだりり存ぞんじじ
 中ナカののああららじじ紫むらさへへ乃の友ともよよ
 中ナカののああららじじ紫むらさへへ乃の友ともよよ

八景詩

七

後小松院

三十一
湊田もくも厚金此

秋され子天死友も

とられ山平

為尹

阿るけく厚金此

此れをん去砂よ是

〜此の日の

宋世

白妙乃去砂よ此

ぬれ厚の金よ此

扱やめの人

栄雅

玉壽此あもも此

此みきく此のあ此

おのりかり子

道盛院

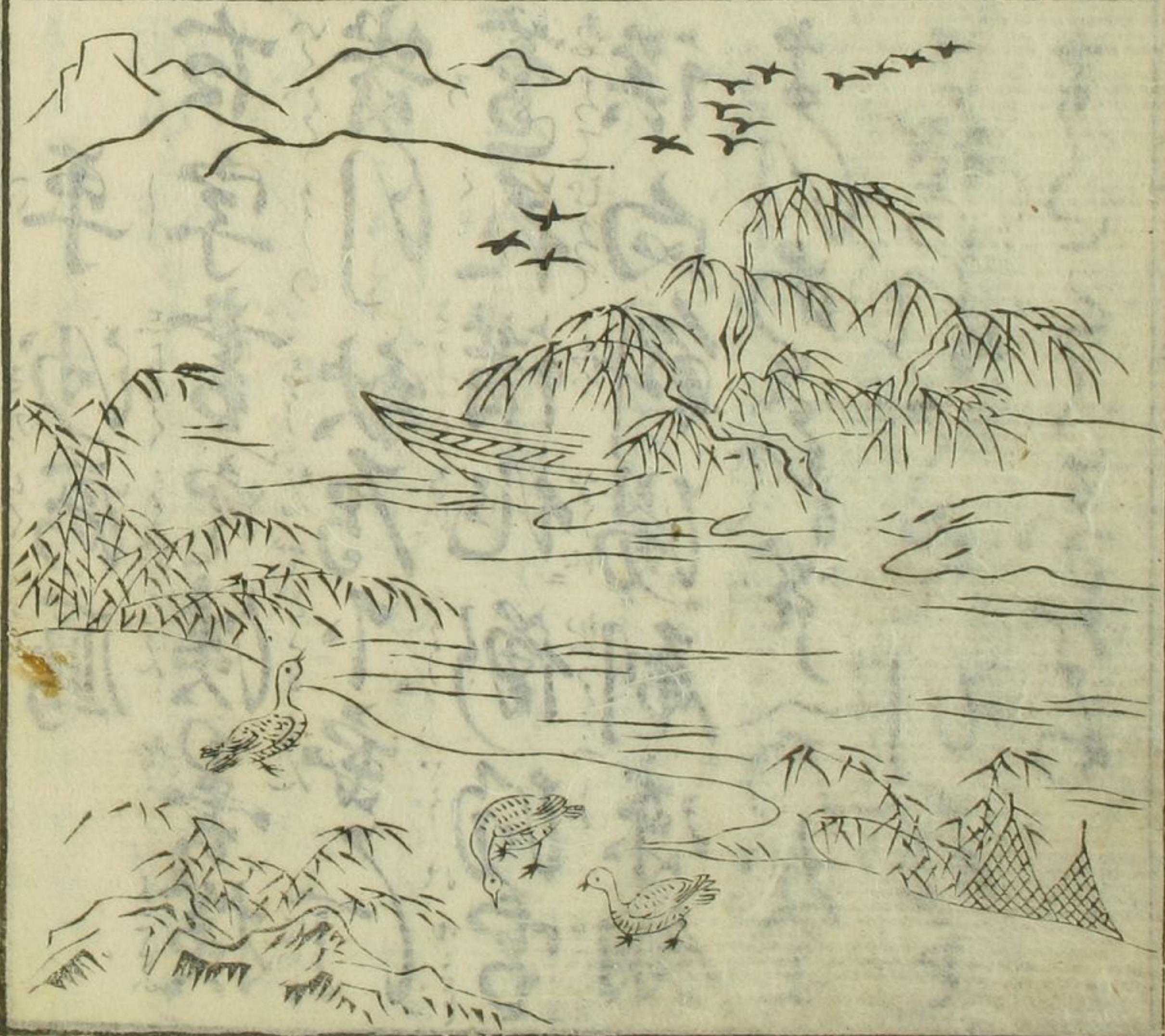
等同よゆんは此

行る友よふりも

心ゆりあり

桂祐

求食そちちる此



平沙落雁

古字書空淡墨横幾行秋鴈下寒

汀芦花錯在衡陽雪誤向斜陽刷

凍翎。題ノ平沙落雁ノ体ヲ全篇ツ

クリ出セル詩也。第一ノ句ハ雁ノツラ

ナリ飛ナリヲ文字ニ見タテタ事ア

ルユヘニカク云ナリ。淡墨トハウス墨也。

秋夕ヘノモノレヅカナル折節海邊

ニ立出テミレハ碧ノ天ニ文字ヲ二三

行薄墨ニテカキタル体ニ似タリト也。

西風よ江の岸も
秋そらうらり
うらり雲のまき吹く
天津房のうらり
河の巻くまき吹く
漢の乃風系ハ語ハ
女子やまのうらり
よはの玉吹拾ひは天れ
よはの玉吹拾ひは天れ

ソレヲヨクくミシハ雁ノ汀ニ飛下ルテ
アリシ也。江ノ邊ニ蘆ノ花カ白妙ニ
多ク有ホトニ雁カコレヲミテ雪カト
アヤルナリ。衡陽ハ衡陽郡ト云カ衡
列ニアリ。日本ノ富士山ノ如ク四季トモ
ニ雪ノ積ル国ナリ。此處ニ四雁峯アリ
リ。雁コニ至テトニルトイヘリ。此芦
花ヲ雪カトアヤルホトニ斜陽ニ向テ
凍翎ヲカイツクラフト也。凍翎ハコホ
レルツバサトヨム。芦ノ花ノ白クムラガ

とみりく前のさぬ
八瀬子心持まのうら
海山のふささうら
いづれまのうら
江東抱子西楓叟判
桂祐詠三光院ぬ之
奥書也

リタルヲ誤テ雪カトオモフホトニテ
ノガツハサモコホリトチラレツラン
ト思ヒテ。夕日ニ向テコレヲツクラフ
トナリ。雁ノ心ヲ推量シテ作レル詩
也。此意ヲ鴨長明ノ歌ニ寒夜ノ水
鳥ト云題ニテクモリユク月ヲハレラ
テラク霜ヲハテヒエタリト鴛鴦ノナ
クナルト讀リ是ハサヤカナル月ノ夜
ツハサニ霜ノヲキタルヲミテ鴛鴦サム
キ一ニキリナレハ聲ヲレモタテカ

...

宋復古八景圖

洞庭暮靄○廬阜

秋雲○平沙雁落

○遠浦帆歸○雨

暗江村○雪藏山

麓○泉岩古柏○

石岸孤松

○燕山八景在燕京

薊門飛雨○瑤嶋

春陰○大液秋風

○盧溝曉月○居

庸疊翠○玉泉垂

虹○道陵夕照○

西山晴雪

關中八景在長安

渭城朝雨○驪山

晚照○灊橋風雪

○朝川煙雨○杜

曲春遊○咸陽晚

渡○藍水飛瓊○

終南疊翠

桃源八景今常德府

子テツハサヲツ、メテ居タルヲリフ

シ。雲ノ一ムラヲホフテ月ニカ、レリ。

其時鴛鴦ヲノガ翅ヲミレバクラクテ

霜ニヘサルホトニ。翎ノ霜キヘタリト思

ヒ喜ニテ友ノ鴛鴦ト聲ヲカハスナリ

ソレヲハラヒエタリト鴛鴦ノ鳴ナルト

ヨナリ。此詩ニヨクカナヘリ。

まのあさねのをこは友よあそびに

おほゆくの宿もあそびに

先のあそびに

とりとむね宿食の空門をわけて

おほゆくの宿もあそびに

ををよび宿食の空門をわけて

おほゆくの宿もあそびに

かくに飛鳴宿食の空門をわけて

おほゆくの宿もあそびに

おほゆくの宿もあそびに

おほゆくの宿もあそびに

おほゆくの宿もあそびに

おほゆくの宿もあそびに

桃川仙隱○白馬

雲濤の緑蘿晴晝

○梅溪煙雨の潯

陽古寺○楚山春

晚○沅江夜月○

童坊曉渡

湟川八景 今楚州の南軒有賦

萬川八景 在萬州郡主有詩

さう体を去るたり。さしの登工は

待をばらりていさ。沙頭西

三鴈波面幾莖蘆と。つこ。おの心を

汀よわの志げれ体を去りその

中よいつくさる乃雁のゆんをよ志

らにとこ入業志をわいひく

はくまふ待と想して詩歌益な

ハ業外云め小意味乃何ふ成よ

一とせれあり

漁湘八景和漢詩歌補遺

江天暮雪

村庵

江風吹雪く如沙

笠何堪

沉今浦暗

向處

玄真乘坎

雪村

綸麗釣客烹鮮

酒燃

天隱

何處

江夫欲暮

釣磯

飛人不见

沙鳥不

遠村只有一

簑歸

東旭

全

靈友侍者字希世号村庵南禅寺僧詩文産者也有集号村庵詩集

譚友梅建仁寺大龍庵開山傳字大

才諱子有集名岷岷集

譚龍澤号默雲建仁寺大目庵住

僧編錦綉段有集号默雲集

譚龍澤号默雲建仁寺大目庵住

僧編錦綉段有集号默雲集

譚龍澤号默雲建仁寺大目庵住

僧編錦綉段有集号默雲集

譚龍澤号默雲建仁寺大目庵住

僧編錦綉段有集号默雲集

万里清湘雪霽空諸峯玉立水西東漁翁不
覺暮寒重醉看江天飛絮風

全

漁舟雪暗暮江涯景到明朝晴後奇七十二
峯波底影羣仙騎鶴下瑤池

全

薄暮凍雲凝半空尖山雪後玉玲瓏而今昭
代徵賢急怪底江干一釣蓬

全

無限江村雪滿船愁雲遙接洞庭天此間正
似山陰夜誰詠當時招隱篇

山市晴嵐

景南東福寺桂昌菴僧諱英

一刻千金春夜月寸陰尺壁暮山嵐市人唯
競日中利豈識奇珍在不貪

全

默雲

山郭迎春颭酒旗市人半散樹陰移溪橋欲
晚馬蹄閑要及歸雲未合時

全

雪村

一簇人家倚層巖相逢多帶烟霞面世上興
衰曾不知只圖新貴米還賤

全

洪滄浪

迢迢山市雜雲林宿雨初晴嵐氣深天外亂

景南

七一

峯時出沒坐看蒼翠萬重陰

遠浦歸帆

空雲

譚等連天龍寺妙智院僧講漢書首集號藏系雲空景

孤帆遠帶夕陽歸浦面風生去似飛翠竹白沙新月下漁童相待倚柴扉

全

遠江日落一帆過延停蒼茫立巖阿襪合舟行堪夜泊人間何處不風波

全

默雲

天際青連何處山歸帆浦遠却如閑風吹十幅弓響影萬里東吳一餉間

全

洪濤浪

洞庭湖濶水連天吳楚東南望渺然一片歸舟向何處孤帆影盡白雲邊

滿湘夜雨

雪村

孤舟一夜湘江上荇葉蕭蕭添雨響逐客不眠愁更多細哦白髮三千丈

全

水濶雲多天少清黃陵廟前雨連明維舟一宿鬢為雪想見湘娥夜々情

全

東沼

譚周巖号祥光建仁寺栖芳院住持好讀莊子有集名流水集

漁湘聽雨宿孤舟滴々分明子解愁虞舜不歸天亦泣餘聲灑竹半江秋

全 漁湘夜雨圖 同

玉堂天上置滿湘夜雨聲懸空葦傍十二髻
髮何事綠蓬窓客鬢白於霜

全 默雲

斑竹叢邊夜雨聲湘江漁父夢頻驚船窓濯
足驅兼瑟惆悵滄浪水未清

全 洪滄浪

夜雨蕭々斑竹枝至今瑤瑟使人悲千歲帝
子無窮恨只在漁湘夜雨時

全 雪村

洞庭秋月 雪村
湖面无風銀漢靜波心浴出寒蟾影乾海清

然沁詩脾有客登樓忘夜永

全 東岳 嵯峨一条禅閣第也

水墨屏中作卧遊洞庭何必棹扁舟湘娥
弄波心月十二風鬟翠欲流

全

湖南勝景洞庭秋清絕殊思今夜樓風捲微
瀾三萬里碧瑠璃上月西流

全

花於京洛獨誇古月至洞庭初是秋八百里
波風不起羣山如畫岳陽樓

全 默雲

岳陽樓上倚欄于萬頃滄浪孤月寒吳楚東
南隨水去怪看七十二峯殘

全

洪滄浪

洞庭茫々天地間遙通蒼海去無還入夜滄
波金不定依々明月照君山

遠寺晚鐘

默雲

寺自何年住翠微疎鐘殷々又斜暉杵聲漸

斷山村黑鴉已飯時僧未歸

孤塔雲埋古梵宮疎鐘梵杵落山風明朝定

可江村雨聲噎濛々煙霧中

全

瑞巖 謹龍惺号蟬閣建仁寺僧江西弟子

煙際招提暮靄寒疎鐘杳々度重巒何如長
樂退朝後花外斜陽數杵殘

全

寺在烟霏紫翠間晚來鐘動更清閑此聲先
落漁翁耳罷釣獨歸芦葦灣

全

洪滄浪

山寺烟深落日曛上方迢迢隔塵氛沙邊水
鳥驚飛去時有鐘聲出向雲

漁村夕照

雲章

村路入稀夕照幽暮鴉落木水悠悠遺賢已
作朝家佐卧楫衣生舊釣舟

吳甫

九日

全 點雲
 茅屋參差簷不齊。沙村竹樹踏常迷。漁翁醉
 著未收網。山遠斜陽西又西。

全 東沼
 世上風波多是非。鷓鴣舊社好志機。漁家亦
 識官相急。送盡斜陽釣未歸。

全 洪滄浪
 水國微茫遠樹稀。漁村落照正依依。暮潮舟
 在柴門外。知是漁翁罷釣歸。

全 東沼
 平沙落雁。東沼
 一夜鴈王呼。雁奴銜蘆飛過洞庭湖。晚風吹

落數行影。陳平沙八陳圖

全 默雲
 渺渺平沙芦葦風。幾行旅雁渡秋空。前群欲
 下却驚起。初月雲間影似弓。

全 洪滄浪
 雁別胡天。一涯滌湘江畔宿。芦花時隨明
 月浮寒水。更度孤烟下白沙。

全 村菴
 滌湘八景圖
 聞說滌湘天下奇。我知八景不同時。如今併
 入畫圖裏。便是江南覺範詩。

便面八景

雪嶺



景至^テ瀟湘^ニ集^ル大成^ス其山其水筆縱橫^ニ盡^ス師^ト亦^シ
慣^ス無^ク絃^ヲ趣^ニ烟寺^ニ晚鐘^ヲ聞^ク不^レ聲^ス

瀟湘八景詩歌補遺 畢

貞享五年壬戌辰二月上澣

官川一翠子道達輯



洛下書林 風葉軒 繡梓

